

2017.3.3

第13回統計教育の方法論ワークショップ



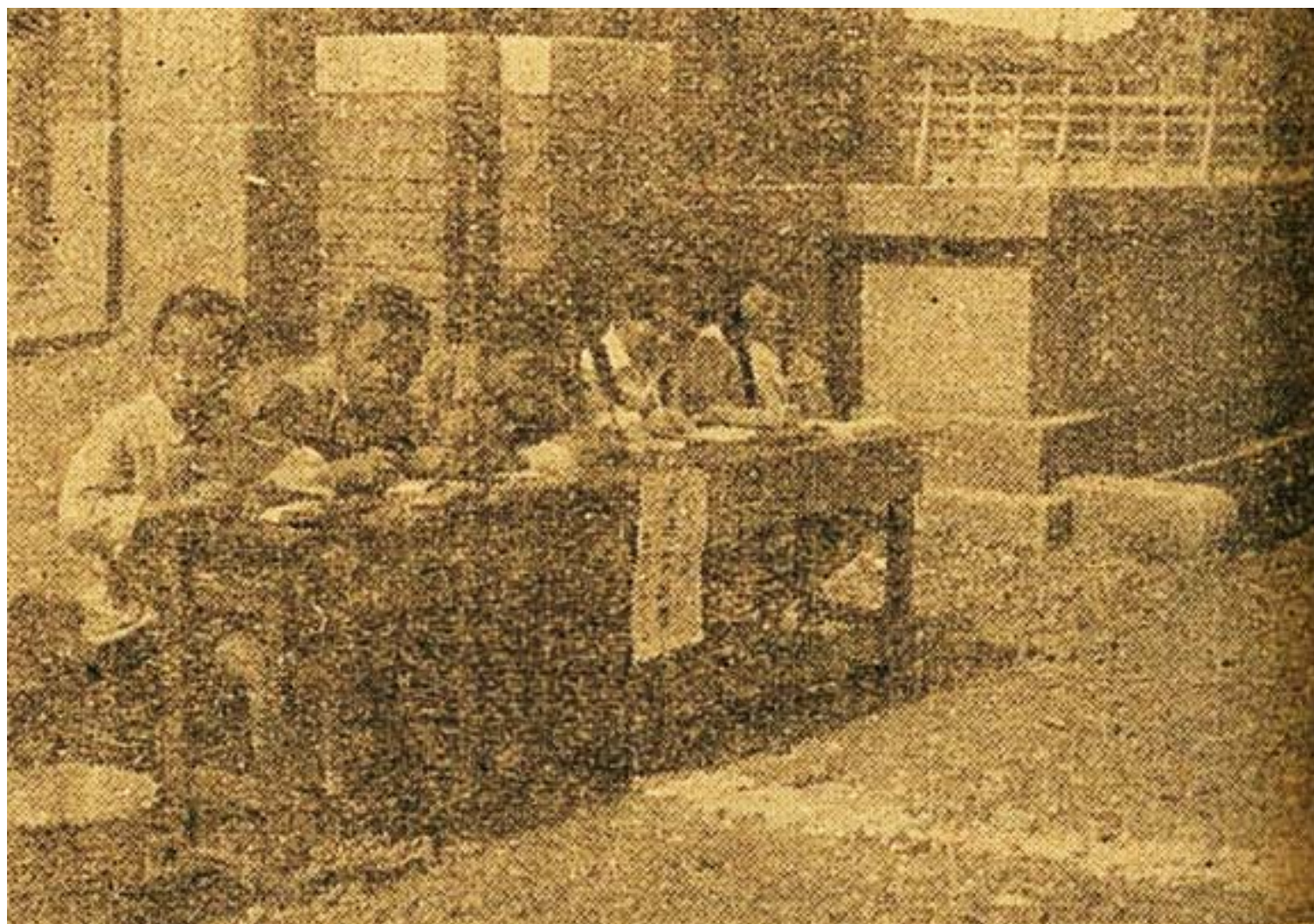
新潟県の統計教育のあゆみ

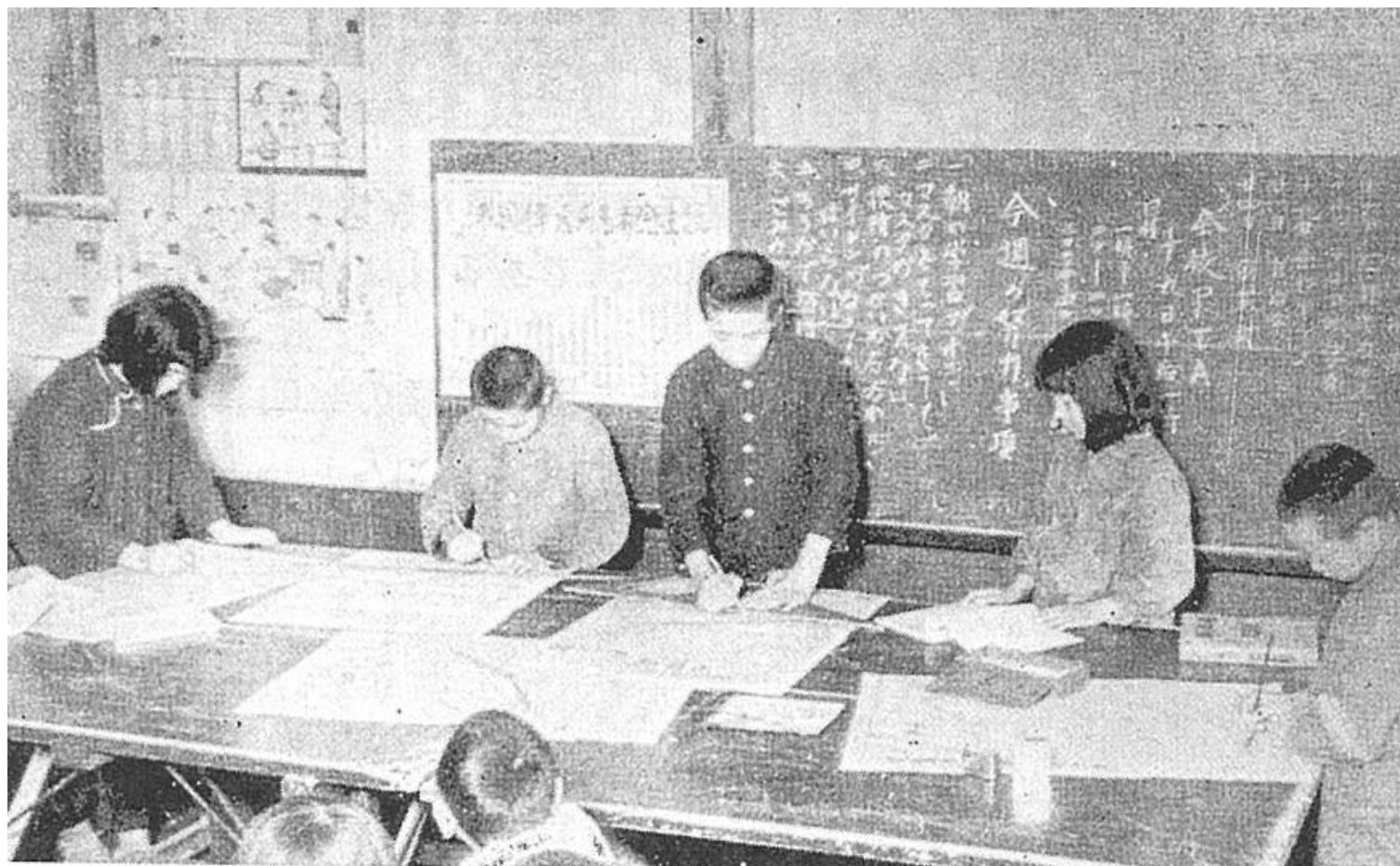
～70年の歴史と今後の課題～

新潟県総務管理部統計課

大関 綾子 南雲 裕介

参考資料：「県の黎明」，「新潟県統計協会60年のあゆみ」，「全国統計協会連合会五十年のあゆみ」





日本の統計教育

発祥は・・・

昭和22年 新潟県

統計教育の発祥

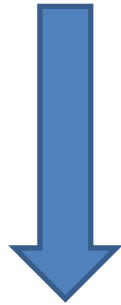
昭和22年 (1947)

米国第1次統計使節団長

ライス博士 報告書

「統計的なものの見方・考え方を子どもの頃から身につけさせ、これを日本人の第二の天性たらしめよ。それを可能にするのは統計教育である。」

「統計教育の問題は初級、上級学校の全部に亘って同時に着手されなくてはならない。」



新潟県

「統計指定学校制度」の創設

**新潟県が統計教育
発祥の地！**

昭和22年 全国初 統計指定学校制度の創設

昭和23年『統計協力学校』に改称し本格実施

統計は社會の鏡

(3)

統計協力學校一覽

(七月末現在)

本縣に於ては統計知識の向上、統計思想の普及を發達を図るため昨年度統計指定学校を設置し縣下九校に研究をお願いしたのであるが、本年度更に十三校を増設して

縣下各郡市一校となつたので、この各校が強力な推進力となつて、縣下全校がこの意下に参じ縣民が一日も早く統計に対する認識を深め眞實な統計ができるよう協力をお

郡市名	學校名	所在地	電話	學級數	生徒數	教員數	校長	研究主任
北蒲原郡	水原中學校	水原町大字中島字養師島三ノ毛	水原五	一六	七九七	二八	相馬九次	長谷川成之
中蒲原郡	新津第一小學校	新津町西裏三ツ三ノ毛	新津五	三三	一九一七	三八	佐藤二郎	石川松太郎
西蒲原郡	吉田小學校	吉田町大字吉砂入〇六三ノ中	吉田天	二六	一四三八	三一	内田文治	治田勉
南蒲原郡	長沢小學校	長沢村大字笹岡四五長沢村大字笹岡四呼出鹿二番甲	津川四	一一	四〇七	二三	若月一雄	藤田藤衛
東蒲原郡	津板小學校	津川町三六	津川四	一五	八三〇	二一	吉川茂	石川雄四郎
三島郡	津板小學校	津板町三六一三四	津板三	二〇	一〇七二	二四	寺村久太郎	若井市郎郎
古志郡	上組小學校	宮内町字堀田屋	長岡免充	一五	八一五	一八	内山平治	長崎寅吉
北魚沼郡	小千谷小學校	小千谷町一九三〇	小千谷登	二七	一四〇〇	三一	関矢平治	八木晋作
南魚沼郡	湯沢小學校	湯沢村二九〇ノ一十日町東甲八〇八	湯沢亮	一二	四八三	一四	南雲晴政	五十嵐佐八郎
中魚沼郡	中通小學校	中通村大字曾地二六七七	曾地四	一七	六八三	三八	松井秀治	高橋広安
刈羽郡	浦田中學校	浦田村大字浦田九六二二	室野三番乙	八	二二一	一〇	佐藤正一	竹内富雄
東頸城郡	能生小學校	能生町大字能生一六二二	能生云	一八	八三二	一九	立石周治	佐藤武
中頸城郡	能生小學校	能生町大字能生一六二二	能生云	一八	八三二	一九	立石周治	佐藤武
西頸城郡	能生小學校	能生町大字能生一六二二	能生云	一八	八三二	一九	立石周治	佐藤武
岩船郡	村上中學校	村上町六七八	村上英夫	一三	七一三	一五	高橋章平	近藤浪次
佐渡郡	天津小學校	天津村大字義太夫	天津四	二五	一八六五	二九	市橋良平	本田徳太郎
新潟市	豊照小學校	新潟市見方町	新潟二六	二六	一四八二	三一	服部堅之助	佐藤文夫
長岡市	表町小學校	下中島二丁目六九	長岡三	二六	一四五〇	二九	大倉正平	小林達治
高田市	東本町小學校	東本町二丁目三元	高田四	二八	一五一四	三三	福本芳尚	藤島敬夫
三條市	第二中學校	一ノ木戸字門前元	三條三六	二〇	九九一	一六	稻葉千代平	内山佐武清
柏崎市	枇杷島小學校	枇杷島三三	柏崎三二	一三	五九六	一三	福本芳尚	藤島敬夫
新発田市	新发田小學校	西塚ノ目八三三	新発田	六四	三八五三	七三	反町清一	

昨年年度統計指定学校といつた名称と制があるのを、これと混同誤解される虞があるので今因「統計協力学校」と改称する事になつた。統計協力学校は次の通りである。

**2年目は13校を増置き、
県下各都市一校となる。**

小学校18校
中学校4校
全22校

再建の貴い資料だ申告だ

〈統計協力学校の内容〉

研究費1500円

研究資料の提供

統計教育の仕事に携わる研究主任を1名配置

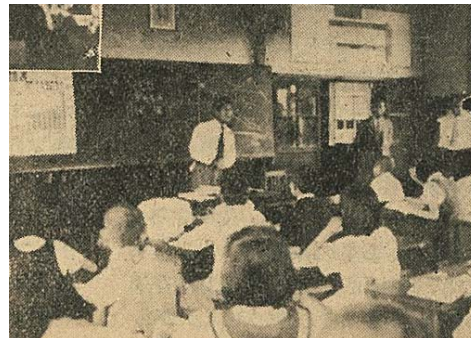
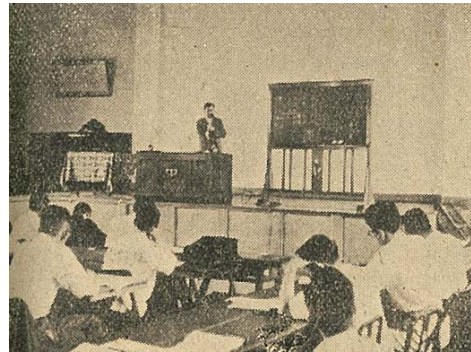
学校の自由な立場において統計を取り上げて貰う。色々な学科において多少なりとも統計を意識して教育する。教育をうける者も知らずの間に統計に興味を持ち、自主的に特定事象の解明に乗り出す方向にいかせるのがねらい。

Ⅴ、巢立つ未成年層の威力

教科，経営面においての指定学校制度と混同されないように、『統計協力学校』へ改称

昭和25年『統計教育研究発表会（全国初）』を開催

第1回は上越市（旧高田市）東本町小学校で開催され、教員約200名が参加



＜プログラム＞

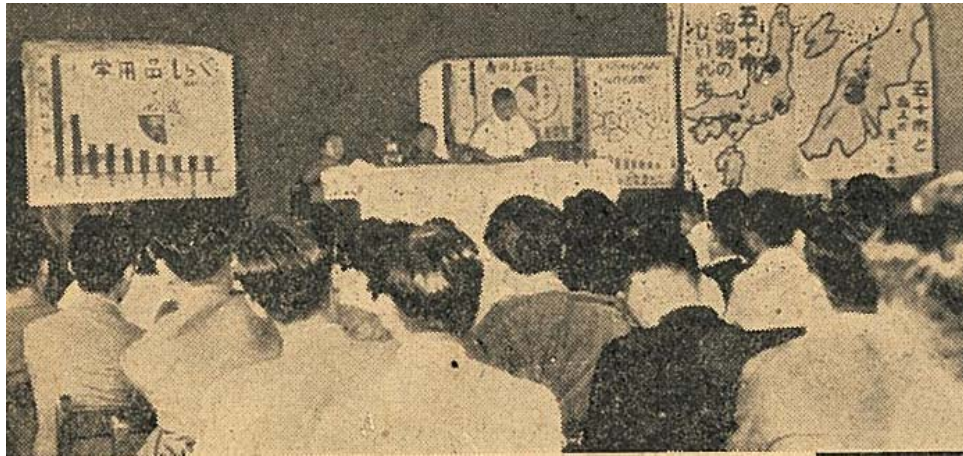
- ・研究授業の公開，参観
- ・講演会
森田優三氏（統計局長）
近藤次郎氏（東大講師，総理府技官）
文部省統計課長，新潟県知事，他
- ・研究発表
- ・研究協議会
- ・図表展示会

毎年1回開催され，参加者は年々増加

第2回 (S26)	新潟市立豊照小	約300名
第3回 (S27)	三条市立第二中	約350名
第4回 (S28)	長岡市立表町小	約650名
第5回 (S29)	柏崎市立枇杷島小	約800名

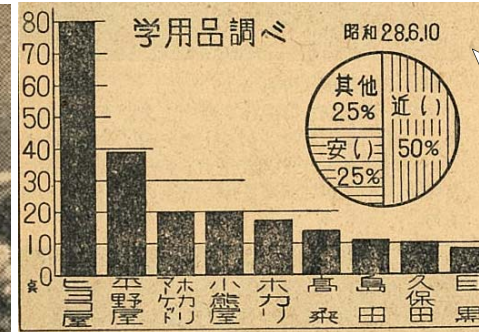
新潟県内の関係者に加え，北海道～鹿児島に至る250名の参加者があり，あたかも全国大会の盛況。

統計教育研究発表会 子ども達の発表①



第4回統計教育研究発表会

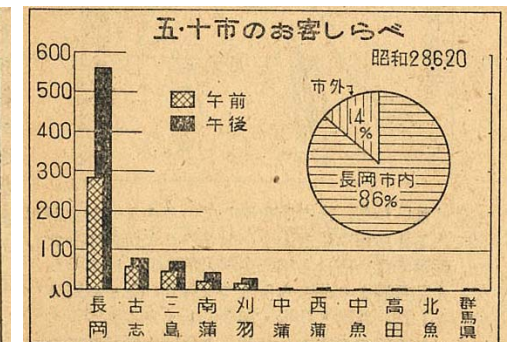
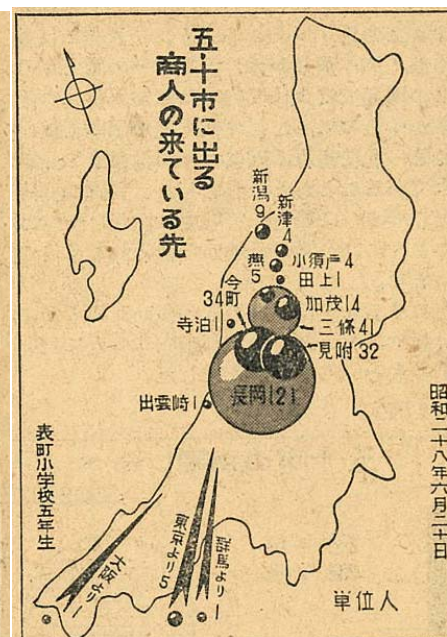
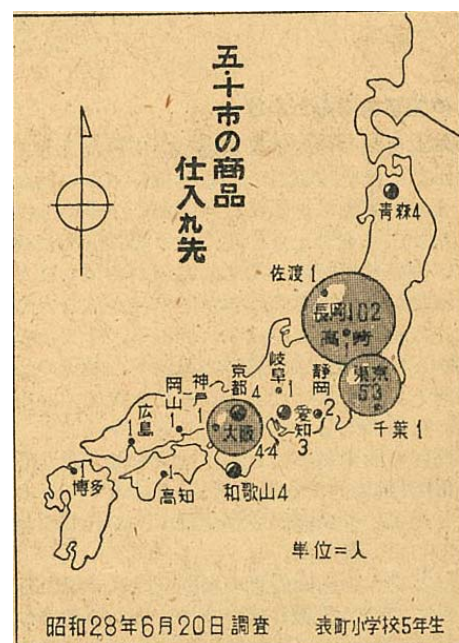
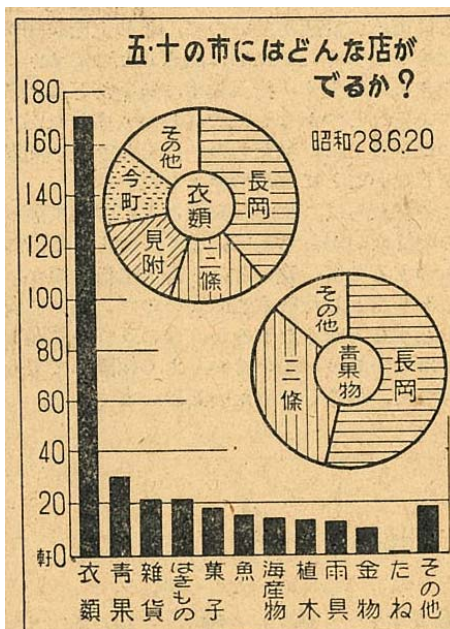
長岡市立表町小学校5年生
吉沢隆平 諸橋泰夫 吉川博儀 君



クラスでのお得意の店調査の結果

この結果から、クラスで話し合いがあり、近い所がいいのに、なぜ遠くまで買いに行く人がいるのか？安いというけど、品の良し悪しがあるので？など、いくつも問題がでてきた。

解決の糸口になるかも！と毎日にぎわう「五・十の市」を調べてみることにした。



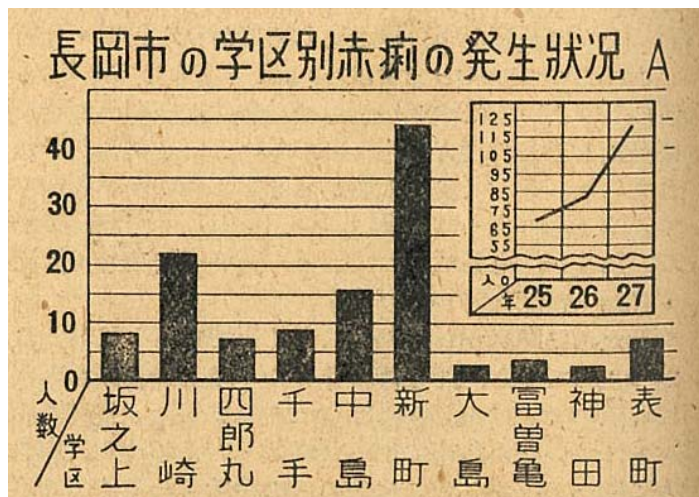
- ・人が集まる理由は安いという理由なのか？
- ・本当に安いのか？
- ・安いならなぜ安いのか？

という、新しい疑問が出た。

統計教育研究発表会 子ども達の発表②

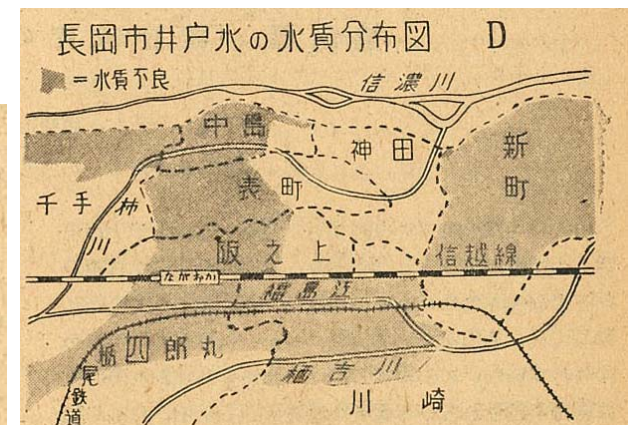
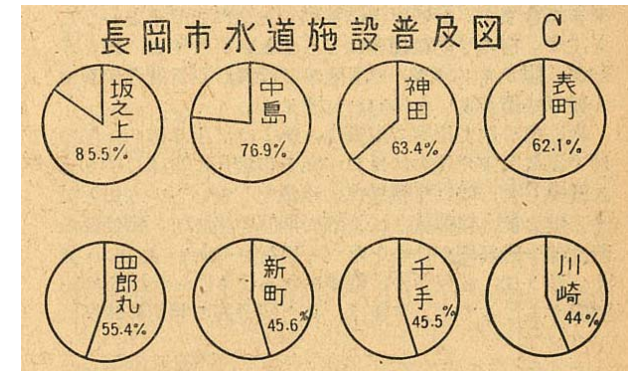
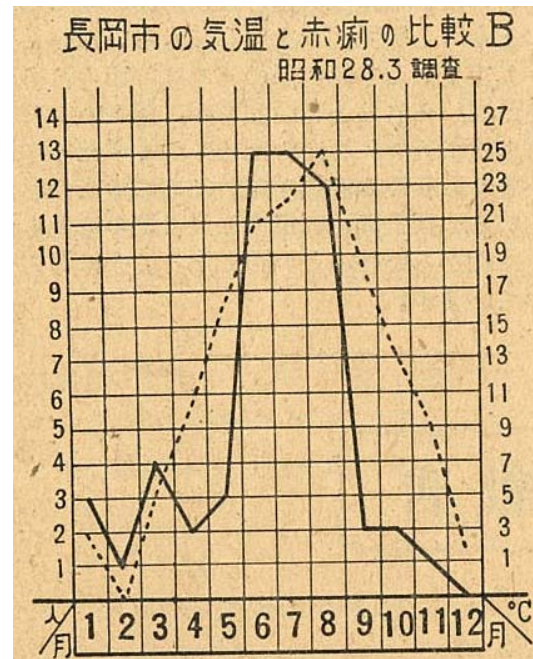


第4回統計教育研究発表会 長岡市立表町小学校6年生
佐藤良子さん



理科の伝染病のことで保健所を訪れ、赤痢の患者が増えてきたという事を聞いたこと。テレビやラジオで集団赤痢事件の事を頻繁に聞くことから

「なぜ、赤痢は夏に多く発生するのだろうか。」という疑問を持ち
長岡市の赤痢について調べた。

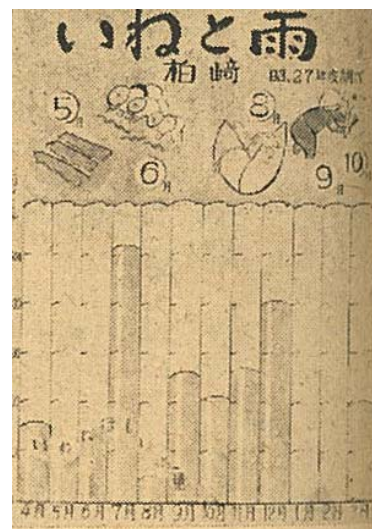
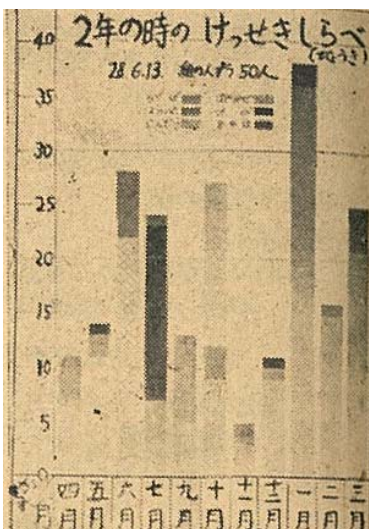
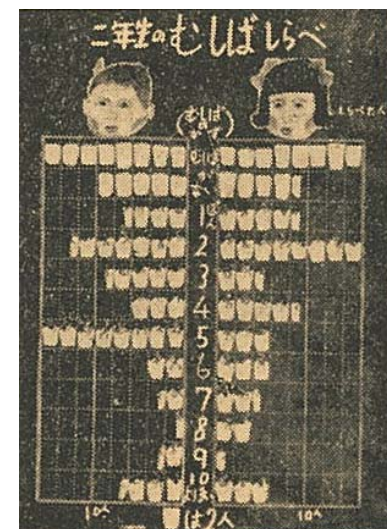
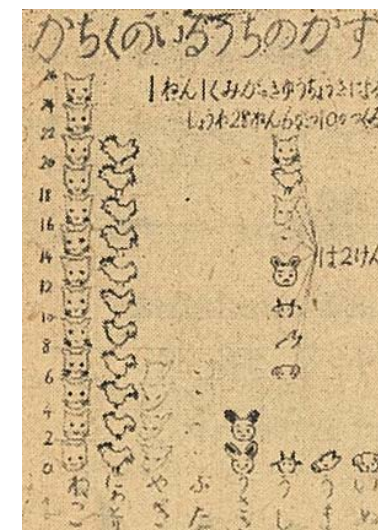
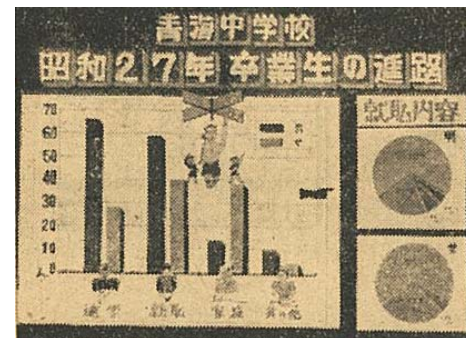
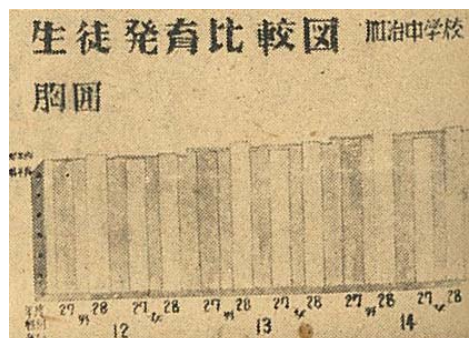


- ・ 赤痢菌の増える温度
 - ・ 媒介するハエの繁殖
 - ・ 戦後の上下水道の復旧
 - ・ 井戸水の水質
 - ・ 夏の信濃川の水質
- が関係していることが分かった。

対策として、ハエ取り、信濃川支流の清掃、予防接種を徹底する。

統計図表展示会の作品 ～グラコンの前身?～

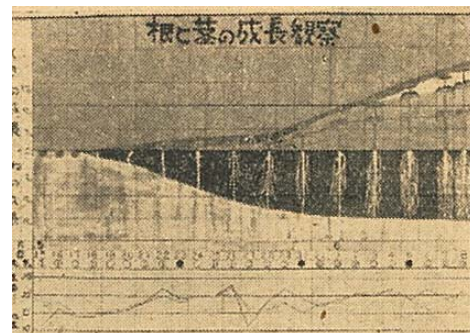
第2回統計教育発表会から行われている、統計ポスターの展示会（第1回統計教育発表会的时候はプレでおこなわれていた）



〈部門〉
学校の部，教職員の部，生徒児童の部

〈賞〉
文部大臣賞，行政管理庁統計基準部長賞，
総理府統計局長賞，新潟県知事賞，新潟
県教育委員会賞，新潟県統計協会賞

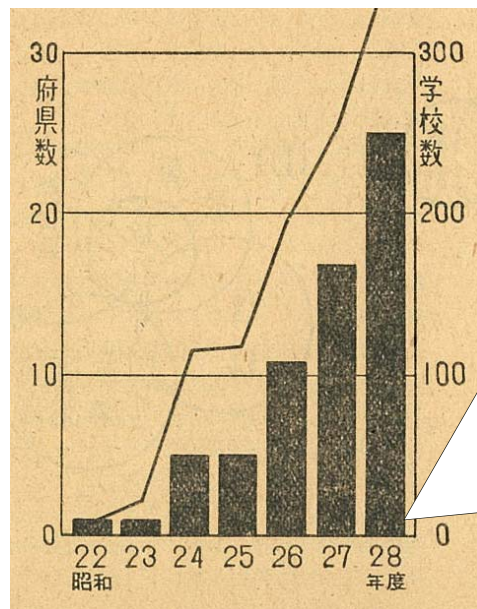
第1回統計グラフ全国コンクール開催年



第2回 (S26)	第3回 (S27)	第4回 (S28)	第5回 (S29)
統計協力学校職員， 児童生徒の作品	303点	291点	261点

統計協力学校の発展（昭和28年度）

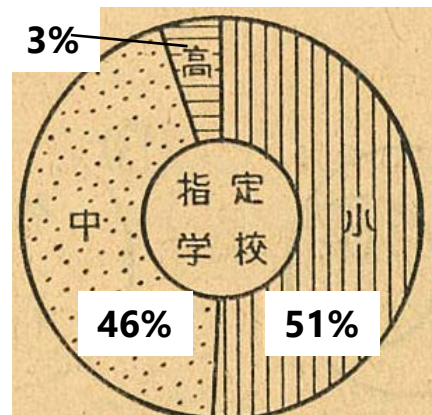
＜統計協力学校数の推移＞



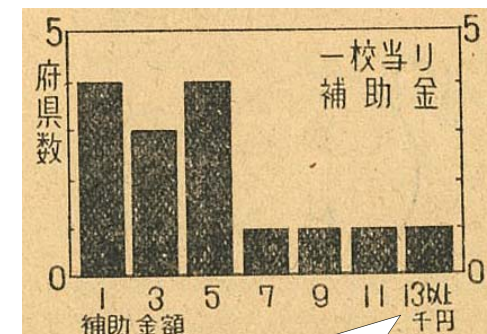
25道府県
341校

北海道 岩手
宮城 秋田
福島 茨城
埼玉 千葉
神奈川 新潟
石川 福井
山梨 滋賀
鳥取 島根
岡山 広島
山口 徳島
愛媛 高知
長崎 熊本
鹿児島

＜協力学校の種別＞



＜一校あたりの補助金額＞

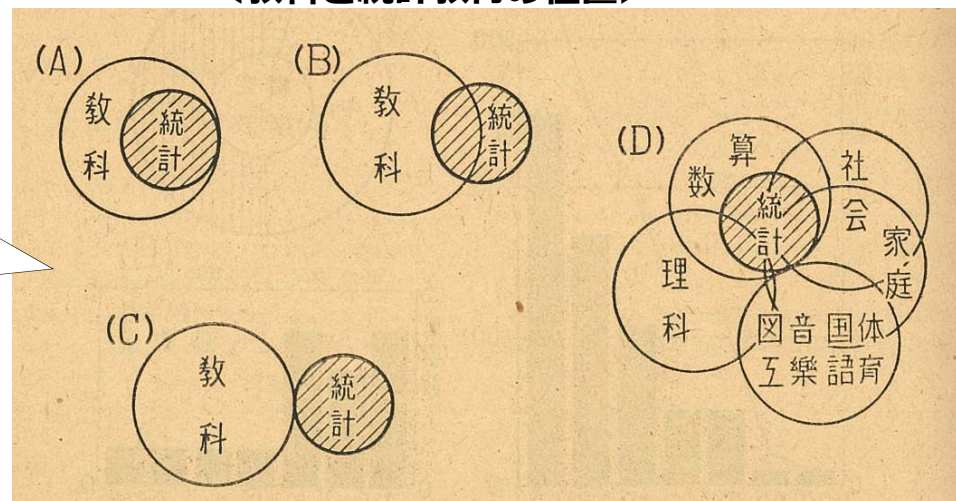


最高は山口県の1万8千円

統計教育の位置づけは難しく、小学校においては児童の環境や心身発達を考慮にいれなければならない。自然と教科の中に出てくるような教育計画を立てておく必要がある。

一番大事なことは、現場で教育に携わる先生自身が統計教育に興味を持たなければならない。

＜教科と統計教育の位置＞



新潟県統計教育研究協議会の結成（昭和31年度）

昭和31年度（1956）

新潟県統計教育研究協議会

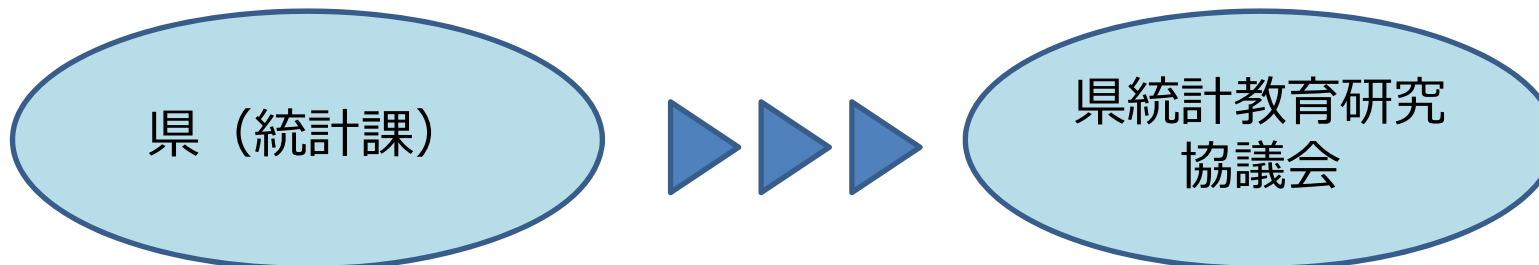
- ◆統計協力学校が中心となり、県下の全小・中学校に呼びかけて同志を募り結成。
- ◆統計教育が一部の学校の特殊教育として位置付けられるのでは無く、全ての学校で取り上げられなければならない。
- ◆統計教育に係る調査研究、研修会、研究誌の作成等。

【主な研究成果物】

「統計教育の研究 理論と実践（1959）」

「統計教育のすゝめ方 研究の手引 理論編（1962）」

統計教育の主体



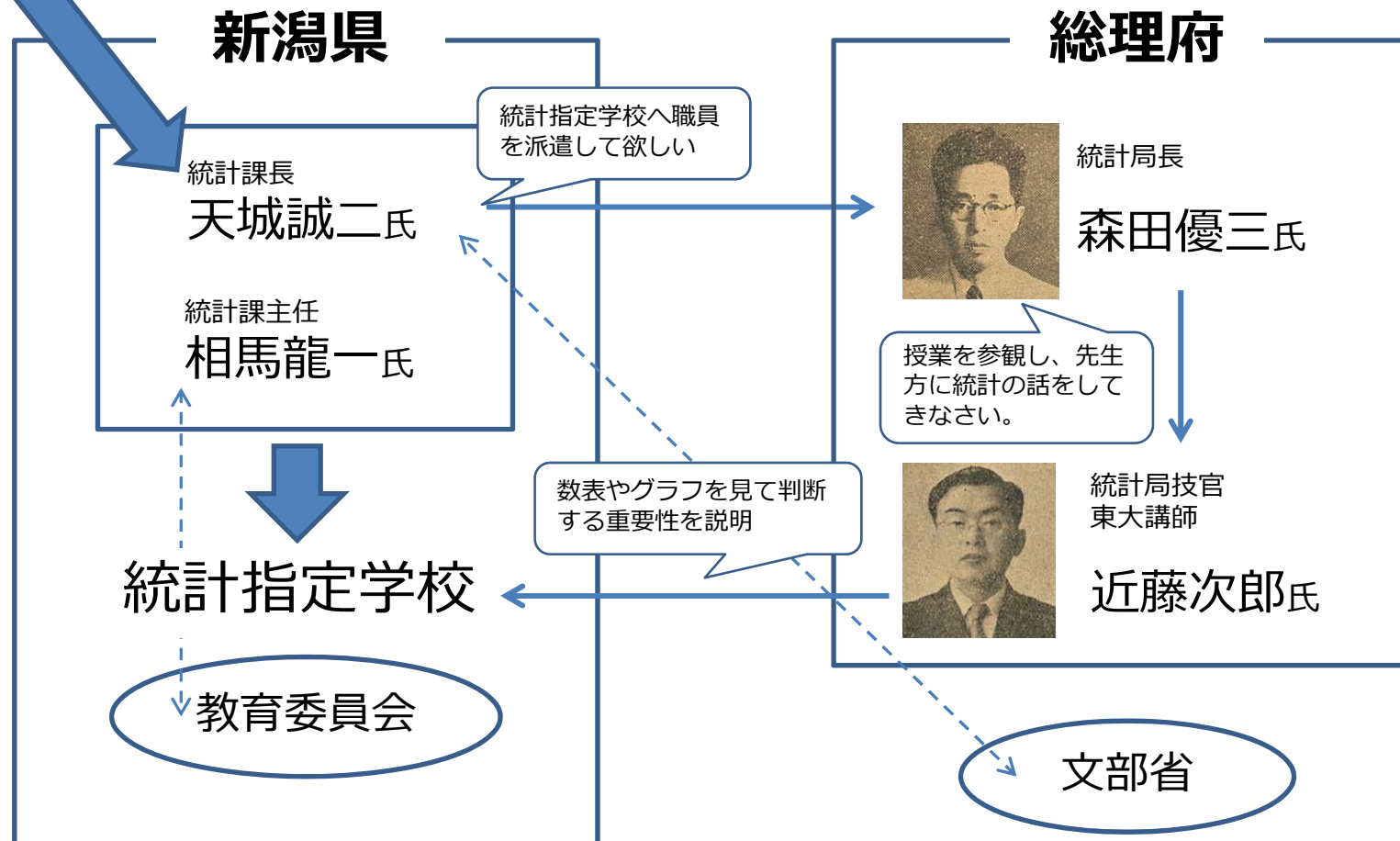
なぜ新潟県から統計教育が始まった？

米国第1次統計使節団長

ライス博士 報告書

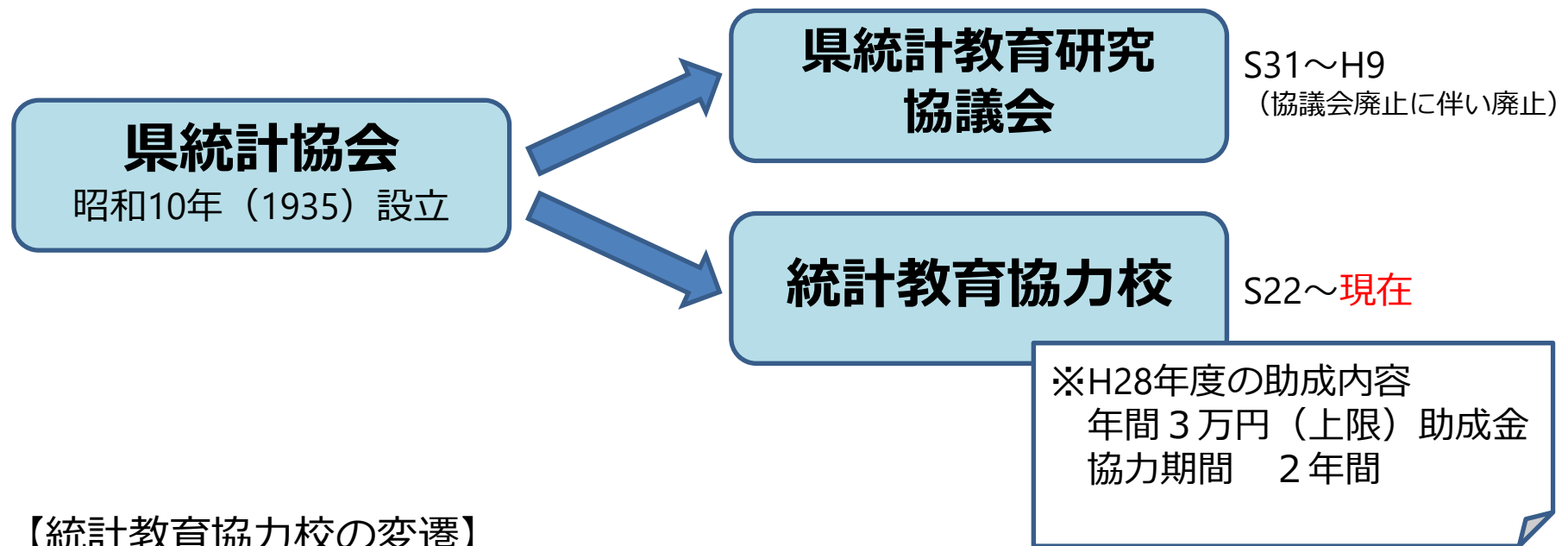
「統計的なものの見方・考え方を子どもの頃から身につけさせ、これを日本人の第二の天性たらしめよ。それを可能にするのは統計教育である。」

「統計教育の問題は初級、上級学校の全部に亘って同時に着手されなくてはならない。」

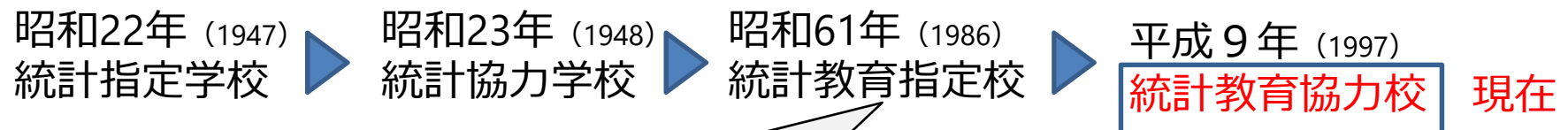


現在の新潟県の取組①

統計教育研究事業助成（昭和22年～現在）



【統計教育協力校の変遷】



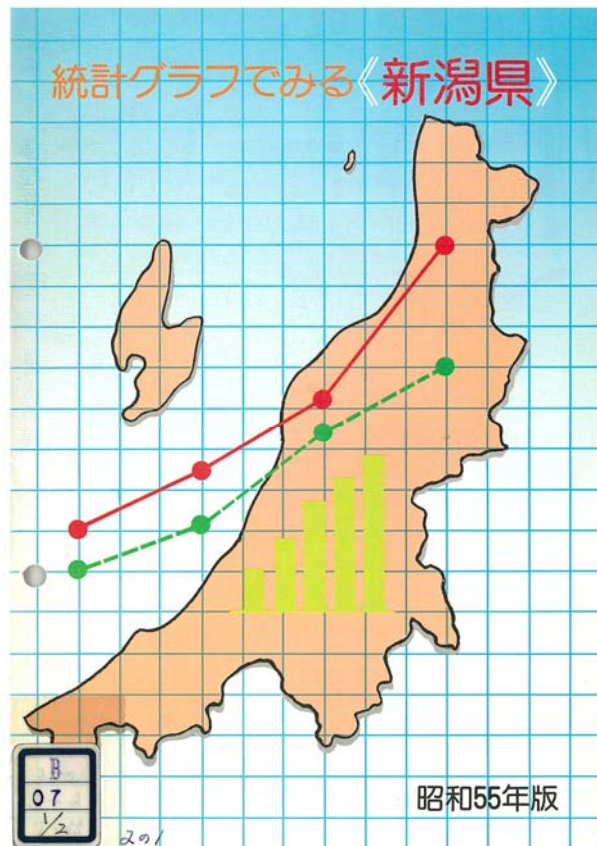
県統計協会
「統計教育研究事業助成要綱」制定

現在の新潟県の取組②

統計グラフでみる新潟県（昭和55年～現在）

◆小学生から統計に親しみ、県勢への正しい理解と統計利用の普及向上を図る。

昭和55年～（冊子配布）



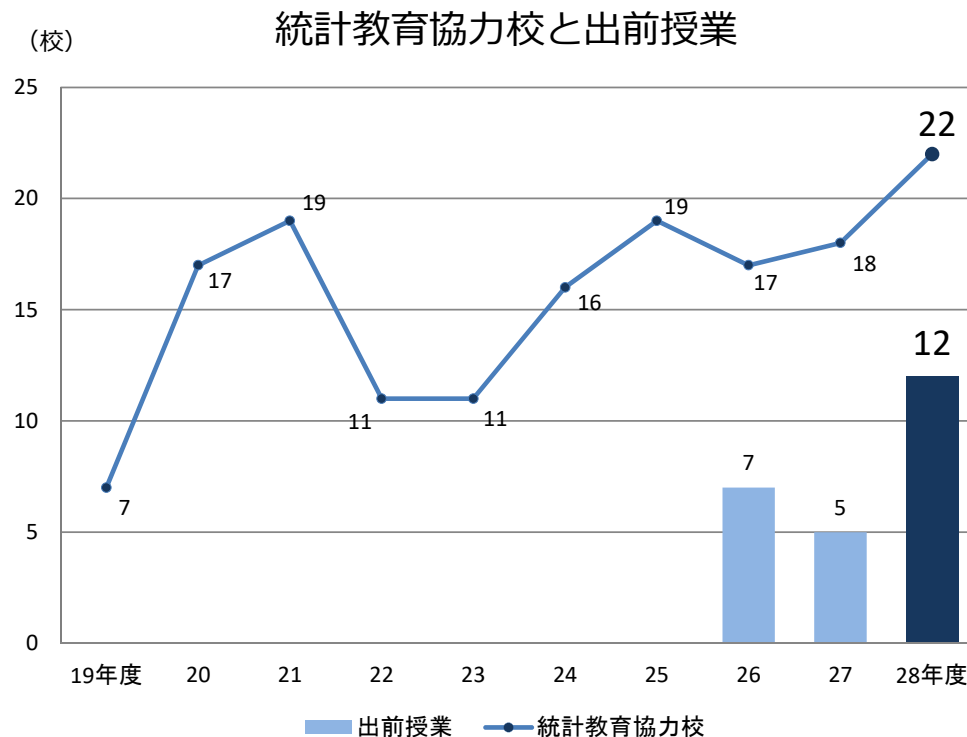
平成13年～（HP公表）



現在の新潟県の取組③

統計出前授業（平成26年度～現在）

- ◆学校における統計教育をサポート、児童生徒への統計の普及・啓発。
- ◆統計課職員が学校に出向き、統計データの読み取り方やグラフ作成のポイントの習得など、演習を通し、学年に合わせた学習を実施。統計グラフコンクール作品の作り方の授業も実施している。



今後の課題

～平成29（2017）年 新潟県で統計教育が発足して70年目の節目の年に～

行政部局と教育部局の連携

教育現場に統計教育の重要性についての理解を深めてもらうための取組み強化。

◆統計教育協力校制度や出前授業の周知

- ・チラシの配布
- ・教職12年経験者研修でのP R

◆教員を対象とした統計教育に関する研修会・セミナーの開催

御静聴ありがとうございました。

